

今日のトピック 最近の指標から見るインド経済(2014年10月) 景気は輸出に支えられ底堅い推移へ

ポイント1 生産は伸び悩み

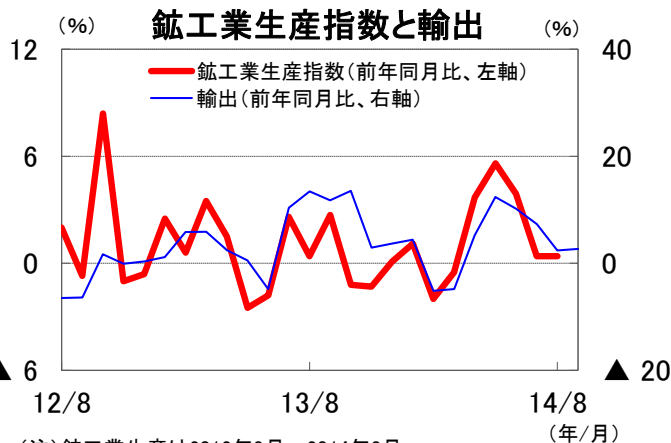
輸出は小幅に持ち直し

- 8月の鉱工業生産指数は前年同月比+0.4%となり前月(同+0.4%)と同じでした。8月の生産は、振れの大きい製造業が減少し、電力と鉱業は増加しました。
- 9月の輸出は同+2.7%と前月(同+2.4%)から小幅に上昇しました。輸出は小幅に持ち直したものの、輸出全体の約16%を占める欧州向けが伸び悩んでおり、全体に影響しています。

ポイント2 物価上昇率は低下へ

政策金利は据え置き

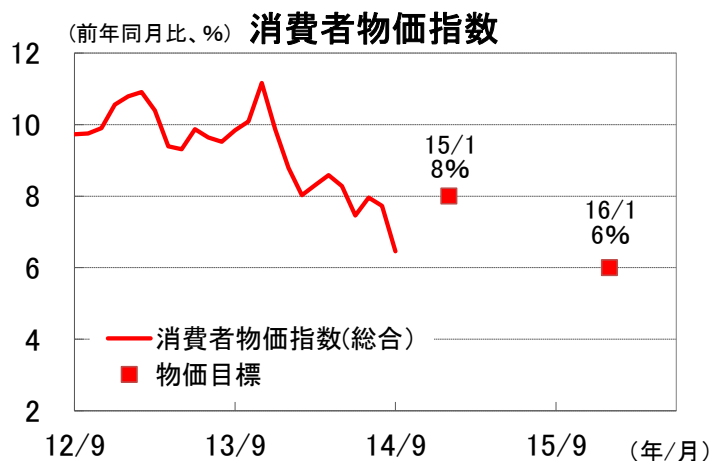
- 9月の消費者物価指数は、前年同月比+6.46%と前月(同+7.73%)から低下しました。食品価格と燃料価格の上昇率の低下が主な要因です。物価上昇率は、原油価格が足元で下落していることや、通貨の安定などから、当面インド準備銀行(中央銀行、RBI)の2015年1月の目標である8%を下回り推移しそうです。
- RBIは9月30日の金融政策会合で政策金利(レポレート)を8.0%に据え置きました。RBIは、物価の上昇に警戒的な姿勢を維持しつつも、物価上昇圧力は前回会合時に比べ和らいだとしています。



(注) 鉱工業生産は2012年8月～2014年8月。

輸出は2012年8月～2014年9月。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データ期間は2012年9月～2014年9月。

2015年1月、2016年1月の物価目標はインド準備銀行(RBI)の目標。

(出所) Bloomberg L.P.、RBIのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気は輸出の緩やかな拡大に支えられ底堅い推移へ

- 景気は、足元で生産が伸び悩むものの、米国経済の回復や中国経済の安定化による輸出の拡大に支えられ、緩やかな回復が見込まれます。
- 物価上昇率は、原油価格の低下や政府とRBIによる物価抑制への取り組みなどから、RBIの目標に沿った推移が続くそうです。物価の緩やかな低下基調などから、RBIは政策金利を当面据え置き、2015年は利下げ観測が強まりそうです。
- 政府とRBIによる物価抑制策や中長期的な経済構造改革、財政健全化は、国債の信用力を高めルピーの上昇要因と見られます。一方、RBIは為替介入などを通じて通貨の安定を目指しており、ルピーは対米ドルで変動の小さい推移となりそうです。

ここもチェック! 2014年09月19日【デイリー No.1,956】最近の指標から見るインド経済(2014年9月)
2014年07月23日【デイリー No.1,919】インド株式市場の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。